C—88 術語「robe」の成立

文化女大家政　菅生ふさ代

1. 近来，文化交流の激しさにともなって，外来語の使用頻度が増大する一方，服飾関係術語の混乱が目立っている。これは西洋服飾史における術語そのものの不定さに基因する場合が少なくないと思われる。言語は生きものであり，発生――変容――進化――衰退などの過程をたどり，固定していることはまれである。とすれば，この意味での進化には時代や民族の服飾観が投影されるのも当然と考えられる。今回はその代表的術語の一つである「robe」の系譜を踏んで，如上の過程を明らかにしようとした。

2. 権威ある基本的辞典によって，その語源と，仏語と英語の意味・用法の相違を調べ，西洋服飾史関係の諸文献をたどって，robeの時代別による意味の転化等について追究した。

3. 仏語における robe は，主に英語の gown に当る general term として使われるのに対して，英語では国王，貴族，裁判官の儀式用正装の意に用いられている。robe が衣服名として文献上に登場するのは 12・13 世紀に遡るが，のち14世紀にかけては重衣形式による一組の正装――une robe――を示す語として用いられ，当時の高級な生地によって3～6枚の一式の服として構成された。15世紀になると，robeは形のかなり限定された単独の表着を指すようになる。こうしてこの語がほぼ今日的概念に近づくのは，15世紀初頭ということが出来る。